

令和4年度 大木中学校学校経営改革方針

【めざす学校像】 「生徒と教職員の笑顔が通う学校」 ～すべての生徒が安心して学べる学校～

【学校教育目標】 「生きる力」を身につけ、未来を切り拓く生徒の育成

【めざす生徒像】 ○ 自ら学び、仲間と高めあう生徒 ○ 笑顔であいさつする生徒 ○ つながりを大切にする生徒

○ 命を大切にする生徒 ○ 地域を愛する生徒

【めざす教職員像】 ○ 授業改善と指導力向上に努める教職員 ○ 「想い」を聴ける教職員 ○ つながりを大切にする教職員 ○ 共に学ぶ教職員

| | 達成方策 | R4年度の活動と短期目標・指標 | 達成状況 | 成果と課題 | 関係者評価 | 今後の改善点 |
|----------|---------------------------------------|---|--|---|--|---|
| 確かな学力の育成 | 主体的、対話的な深い学びの実現 (学び合いによる協働的な授業の創造) | ①指導主事や外部講師を招聘しての公開研究授業を各学期1回実施する。 ②「言語活動の向上」をテーマに授業公開週間設定し、すべての教員が公開授業を行い、授業力を向上させる。 ③市内外の授業研究会に積極的に参加(1回以上)し、よりよい指導方法を学ぶ。 ④「授業力UP5」の基づく授業改善を図る。 ⑤全国学力・学習状況調査及びみえスタディチェックの全職員での実施や自校採点からの課題から授業改善を図る。 ※全国学力調査の平均正答率 全教科全国・県平均以上 ※みえスタディチェック正答率 全教科県平均以上 | ①達成「言語活動の充実」と「ICT機器の活用」に向けて指導主事を招聘・研修会を実施した。 ②達成 ③おおむね達成 ④おおむね達成 ⑤校内研修で、全教員による課題検討を行った。 ※全国学力調査の全教科全国・県以上を達成。 ※みえスタディチェック1年数学・国語で県平均以上を達成。 みえスタディチェック2年国語で平均点以上を達成。 | ○1人1回指導案を作成し、公開授業を行ったことで、教職員の自己研鑽につながった。また複数の指導主事からICT活用と教科指導の両面から助言を受け、授業力や指導力の向上につながった。 ○教職員一人ひとりが、本校の研修課題を意識的に授業に取り入れることができた。 | | ・引き続き、目標や課題を共通理解し、研修会を定期的に開催していく。 |
| | 基礎学力の定着(家庭学習・学習支援・読書活動の充実) | ①生活ノート「MY LIFE」の自主学スペースを日々の復習・振り返りに取り組む。 ②家庭と連携し「学習習慣・生活習慣などのチェックシート」に取り組む。 ③定期考査前の補充学習(2日間)、夏季休業中の補充学習(4回以上)を行う。 ④1、2年生は朝の10分間読書に取り組む。読書週間(2回以上)を実施する。 ⑤一人一台端末の持ち帰りにより、家庭学習の充実を図る。 ※学校アンケートで「家庭学習にしっかり取り組んでいる」に肯定的な回答生徒80%以上(昨年度66.7%)、保護者80%以上(昨年度63.7%) ※学校アンケート「朝の読書以外に読書をしている」に肯定的な回答生徒65%以上(昨年度52.7%) ※図書貸し出し冊数2000冊以上 | ①達成 ②達成 ③達成 ④達成:「先生のおすすめコーナー」にて読書活動の啓発を行った。 ⑤未達成:学校アンケート「家庭学習」生徒65.4%、保護者56.2% ※学校アンケート「朝以外の読書」45.4% ※図書貸し出し冊数2470冊(12月現在) | ●家庭学習に関しては、定着させることが難しい生徒も多数見られる。まずは提出することを目指して声掛けを続けている。 ○図書の出借冊数については増加傾向にある。図書ボランティアや巡回指導員と連携して図書館を運営することができた。また、国語の授業でブックトークをしたり(1年生)、授業内で図書室を利用して貸し出しを呼びかけたりして(全学年)、読書活動の推進を行った。 | ・自分の興味がある本、スポーツ選手の本屋や絵本などでも、本をたくさん読んでもらいたい。 ・家庭での端末の使い方が全く見えていないことに不安がある。 ・数学のプリント学習や放課後学習など、塾に通わなくても学力が伸びたと思います。 ・図書館の利用が少ない人もいる。 ・子どもたちの興味関心が高まる本を購入されている。 ・生徒からのリクエストも考慮され、子どもたち目線での本選びも大切にしている。 | ・家庭学習に関しては、粘り強く指導、声掛けを行っていく。また、一人一台PCも活用しつつ、家庭学習の課題についても検討していく。 ・放課後学習等有効な取り組みを継続していく。 |
| | ICTを活用した授業の改善(一人一台パソコンの有効活用) | ①ICT活用指導力の向上(ICT研修2回以上)に取り組み、授業での有効活用を図る。 ※授業における一人一台端末の「月1回程度」以下の職員0人 | ①おおむね達成:ICT研修を3度実施(自主研修1回を含む) ※授業における一人一台端末の「月1回程度」以下の職員13人 | ○ICTを活用した授業や課題についての交流やアイデアの共有が十分に行えた。 ●持ち帰り課題(家庭学習)をどれだけ実践に移していけるかが課題である。 | ・PCの活用ができない理由は何か。 ・ICTを活用した授業を見せていただく機会があるとよいと思います。 ・急な始業時間の変更などPCを持ち帰っていることで子ども自身が確認できてよかった。 ・コロナや不登校など学校を休んでいても繋がりがや勉強ができてよかった。 ・PC持ち帰りについて家庭での使い方や制限について、学校と家庭の協力が必要。 | ・今後も研修会をひらき、実践交流をしていく必要がある。また、日常的に活用することを通して教職員間・生徒間ともにICT機器の活用能力の差を縮めていきたい。 |
| 豊かな心の育成 | 考え、議論する道徳の創造 | ①道徳の公開授業研究会の実施。 ②指導計画の作成と見直し及び取組の進捗状況の確認(月1回以上)。 ※学校アンケート「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、仲間と議論したりする活動に取り組んだ」肯定的な回答92%以上(昨年度90.3%) | ①2月実施予定 ②おおむね達成: ※学校アンケート結果:肯定的な回答 88.5% | ●校区で例年公開授業を設定している。密に連絡を取り合うことが必要である。 ○週に一回程度、学年の道徳授業の還流ができています。 | | ・学年間問わず、引き続き還流をすることや、校区での連携もはかっている。 |
| | 人権教育・多文化共生教育の推進(多様性の尊重) | ①校区内の小中の連携を密にした人権教育を推進する。(校区人権部会年間5回)。 ②小グループを活用したソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターによる人間関係作りを行う。(月1回) ③JSLバンドスケールに基づいた生徒への指導や合理的配慮に取り組む。 ※学校アンケート「いじめや差別等の人権問題に真剣に取り組んでいる」に“非常にそう思う”と回答 生徒70%以上(昨年度57.0%) 保護者30%以上(昨年度12.5%) | ①おおむね達成:12月時点で4回実施 ②未達成:学期に1～2回程度 ③今年度、日本語指導等が必要な生徒が在籍していない。バンドスケール等は各学年で行っている。 ※学校アンケート結果 生徒44.1% 保護者10.7% | ○人権教育を各学年の実態に応じて取り組もうとしている。 ○校区の課題も共有できているので、課題克服のために連携を今後も密にしていきたい。 | ・異なる文化や価値観を持つ人と対話することが増えるので、柔軟な心を持って欲しい。 | ・校区の課題を達成できるようなカリキュラムを、校区連絡会で検討していきたい。また、学校では、学年の実態に応じながら、人権学習を進めていきたい。 |

| | | | | | | |
|----------------|---------------------|---|--|--|---|---|
| 健康な身体と体力の育成 | 食育の充実 | ①お弁当の日の設定(各学期1回) ②学校栄養教諭との連携したり、昼の放送の活用したりして食への関心を広げる。 | ①おおむね達成:お弁当の日は実施しなかった。夏休みの宿題で、家庭で料理をし、レポートを提出した。冬休みの宿題で、お雑煮についてのレポートをした。 ②達成:学校栄養教諭と連携し、中学生にとって望ましい食習慣についての講義をした。毎日の給食ではお昼の放送を活用して給食メニューのアナウンスをして生徒に伝えた。食品ロス講演会を実施した。 | ○自分で料理を作ることで、食べることの大切さを学び、自分の適正量やいろどりを考える機会になった。 ○食に関する伝統や文化の再確認ができた。 ●コロナの影響で、他者とのコミュニケーションを取りながら楽しく食べる「共食」ができず、ひとりで食べる「孤食」「黙食」にならざるをえなかった。 | ・脱コロナ禍の中での共食を情報を集めて考えていきたい。 ・お弁当の日を続けて欲しい。 ・夏休みの宿題でのお弁当づくりは、保護者も余裕があつてよかった。 ・調理実習ができるのもっと楽しく取り組めると思う。 | ・お弁当の日は、夏休みの課題として継続していく。 |
| | 保健・健康教育の推進 | ①ほけんだよりを発行する(月1回) ②アレルギーや事例研修を実施する(必要に応じて随時実施) | ①達成:保健たよりを通して保健に関する情報提供や日々の生徒の活動などを伝えた。 ②おおむね達成:アレルギー疾患、心臓疾患、腎臓疾患等を抱える生徒への個々の指導や必要に応じて保護者との面談が実施できた。 | ○安全な除去食対応ができた。引き続きおこなう。また、全体での研修の場が持てなかったので、次回おこなう。 ○一年生の保健の授業「生殖機能の成熟」の分野をTTで行えた。全体に命の学習を深めたかったができなかった。 | ・地域の見聞板などで閲覧できてよかった。 ・是非、命の学習を。 | ・職員全体への情報提供を積極的にしていく。 ・校内部会や学年部会と情報共有を密にする。 |
| 自律し未来を切り拓く力の育成 | 基本的な生活習慣の確立 | ①毎週月曜日、教職員による挨拶運動を行う。 ②学校・学年通信、ホームページなどで、子どもの様子を積極的に保護者に伝える。(HPの更新週3回以上) ③組織的に生徒指導を実施し、家庭や地域、関係機関との連携を図り、生徒支援の充実に努める。 ※学校アンケート「あいさつをしている」で“非常にそう思う”と回答 生徒70%以上(昨年度43.8%) 保護者50%以上(昨年度21.8%) ※学校アンケート「あなたの周囲の仲間、ルール(規則)を守っている」で“非常にそう思う”と回答 生徒70%以上(昨年度36.9%) | ①達成 ②達成:学校通信(18回)、ホームページ更新(200回以上) ③おおむね達成 ※学校アンケート「あいさつをしている」生徒41.9% 保護者26.4% ※学校アンケート「あなたの周囲の仲間は、ルール(規則)を守っている」生徒39.8% | ○挨拶運動を実施することができた。 ○通信は、定期的に発行している。 ○HPは、定期的に更新している。 ○校則改定の流れで、校則の意義を考える時間ができた。 ●生徒アンケートと保護者アンケートとの差は依然として大きい。校内外問わず、自発的に挨拶する生徒を育てていきたい。 ●守っていないが指導されていないもしくは改善されていないと感じている生徒が一定数存在するので、教職員の指導のラインをそろえ組織的な対応が必要である。 ●TPOを考えてルールを守る生徒を育てていきたい。 | ・校則改正について、話し合えたことが今後の成長につながると思います。 ・あいさつが少ない。 ・あいさつ運動は続けて欲しい。 ・自発的にはできなくても、挨拶を返すことができたらよいかなと思います。 ・保護者、教職員、地域の人々が中学生のお手本となれるよう大人も頑張らなくてはいけない。 ・元気に笑顔であいさつできるようこれからも育てていきたい。 ・HPの更新回数が多く校内の様子がよくわかるが、そのことを知らない保護者が多い。 ・学年の先生で基準を統一するのではなく、学校全体で統一して欲しい。 | ・あいさつ運動を続けていく中で、あいさつを大切にすることを目指していく。 ・校則改正を引き続き行い、基準の統一を行っていく。 |
| | 特別支援教育の推進 | ①研修部会や生徒指導部会と連携し、特別支援教育の共通理解を図る。 ②特別支援学級児童生徒の校区連携を図る。(年間6回以上) ③関係専門機関との連携を推進する。 ※必要な生徒に対する個別の支援計画・個別の指導計画の作成及び見直し100% ※学校アンケート「一人ひとりのことを大切に考え指導してくれる」に“非常にそう思う”と回答 生徒70%(昨年度54.5%) | ①達成:支援部会および職員会議では情報共有を行うことができた。 ②達成:コロナ禍の為にリモート交流を4回(内、3学期に2回予定)行った。 ③おおむね達成 ※個別の支援計画・指導計画の作成及び見直し 100% ※学校アンケート「一人ひとりのことを大切に考え指導してくれる」生徒47.8%。 | ○他学年との情報共有を図り特性に応じた指導に繋げることができた。 ◇新型コロナウイルス予防のために今年度もリモートでの交流をおこなったが、交流の1つの方法として今後も考えていきたい。 ●個別の支援計画・個別の指導計画については、担当者のみの見直しにならないよう、複数での作成や学年でのチェックが必要。 | | ・各学年との連携および協力体制を強化していく。 ・学年会等で情報共有をしっかりと行い、指導・支援内容を確認していく。 |
| | 長期欠席生徒の未然防止と自立支援の充実 | ①積極的な家庭訪問による信頼関係づくりや生活習慣改善への働きかけを行う。 ②保護者との連携を密にし、外部機関との連携やSC・SSWの活用を図る。 ③魅力ある授業づくりに取り組むとともに、個に応じた具体的な支援方法(適応教室、TT、取り出し等)や合理的配慮を推進する。 ④毎日の生活ノートでのつながりや学期ごとに教育相談を実施する。 ※学校アンケート「先生は何でも快く相談にのってくれる」に“非常にそう思う”と回答 生徒65%(昨年度55.2%) ※学校アンケート「学校は、子どもたちの相談に親身に応じている」に“非常にそう思う”と回答 保護者30%以上(昨年度10.8%) ※長期欠席(30日以上欠席)生徒前年度比-25%以下(昨年度長期欠席29人) | ①達成:各担任を中心に気がかりな生徒に対して積極的な家庭訪問を行うことができた。特に心配な生徒に対しては不登校支援員の方が定期的に家庭訪問を行った。 ②達成:SCの相談人数13名 SSWの活用を図る(1件)子ども家庭支援課見相などと連携した。 ③達成:SCクラスの活用人数17名 学習支援員活用等合理的配慮を推進した。 ④おおむね達成:毎日の生活ノートでのつながりや学期ごとに教育相談を実施した。 ※学校アンケート「先生は困ったときに快く相談にのってくれる」に“あてはまる”と回答 生徒50.4% ※学校アンケート「学校は、子どもたちの相談に親身に応じている」に“あてはまる”と回答 保護者13.3% ※長期欠席(30日以上欠席)生徒前年度比-25%以下(長期欠席22人 7人減少 -24.1%) | ○各担任を中心に心配な生徒に対して家庭訪問を行った。特に心配な生徒に対しては、不登校支援員の方が定期的に家庭訪問を行った。 ○SSW(ソーシャルスクールワーカー)、SC(スクールカウンセラー)、教育委員会等の機関と連携できた。 ○SCクラスの利用人数が増えた。教室復帰や早い時期での対応がすすみ長欠の減少につながっている。 ◇教育相談の時間確保に強化した。しかし行事や授業の確保など配慮すべきこともあり設定時期に余裕がほしい。支援のための研修や校区のCDの連携会議などを開催することでいろいろな角度からの支援を検討できた。 | ・学校内で気軽に相談できる先生、場所があることは、心身ともに安心でき学習意欲にもつながり、人にも優しくなれると思います。 ・先生方の時間的余裕の確保を考えていく必要がある。 | ・教育相談の時間確保を強化した。しかし行事や授業の確保など設定時期に余裕がほしい。 ・支援のための研修や校区のCDの連携会議などを継続する必要を必要とする様々な支援を必要とする生徒が増加している中、教員が具体的な合理的配慮を行う研修をさらに積む必要がある。 ・支援計画や指導計画を綿密に立てる時間確保が必要である。 |

| | | | | | | |
|----------------|----------------------------|--|--|--|--|---|
| 自律し未来を切り拓く力の育成 | キャリア教育の推進 | ①「職業調べ」(1年生)「社会人から学ぶ」(2年生)「高校授業体験講座」(3年生)の取組の充実を図る。 ②キャリアパスポートを活用し、自分の生き方について見つめることで系統だったキャリア教育を行う。 ③進路通信、進路説明会、保護者会を通じて様々な情報発信や相談会を行う。 ※学校アンケート「進路や職業について適切な情報提供や指導を行っている」に“非常にそう思う”と回答 生徒70%以上(昨年度55.2%) 保護者25%以上(昨年度9.6%) | ①達成:1年生は「進路学習」、2年生は「オンライン企業訪問」、3年生は「高校授業体験講座」を9月中旬に実施し、多くの企業や高校の協力を得ることができた。生徒も希望する講座に参加することができ、充実した時間を過ごしていた。 ② ③未達成:学校アンケートの結果を見ると、生徒は46.5%の回答で、保護者は8.5%の結果であった。 | ◇生徒にとって高校のことを知る機会であり、多くの高校の協力も得られるなら、今後も続けていくべきであると考え。 ●3年生として、進路通信をこまめに発行し、また進路関係のポスター等を、学級や廊下等掲示した。しかし生徒の回答はほぼ目標まで近づいたが、保護者の回答は目標に程遠かった。やはり学校からの配布物が保護者の手元に届かない場合があると思われる。 | ・市内ロータリークラブの出前授業を活用してはどうか。 ・保護者が進路について無関心なのではないか。メール配信で周知するなどの改善策が必要。 ・今後も引き続き頑張ってください。 | ・学校からの進路についての連絡が通信だけで行って行くのであれば、家庭と協力して通信が保護者に確実に届くようにしていきたい。 |
| | 部活動の充実 | 1部活動運営方針に沿った運営を行う。(計画表の配布、活動内容の改善、週2日以上 の休日など) 2すべての部活動で保護者会を実施し、メール配信も積極的に利用する。 3外部指導員(学校支援ボランティア)を活かした部活動を実施する。 ※学校アンケート「部活動に積極的に参加している」に“非常にそう思う”と回答 生徒70%以上(昨年度59.3%) 保護者70%以上(昨年度39.9%) ※部活動運営方針に基づいた休養日の遵守(100%) | 1達成。 2達成。 3おおむね達成:卓球部、野球部、バレーボール部、ソフトボール部では実施されている。 ※学校アンケート「部活動に積極的に参加している」に“非常にそう思う”と回答:生徒:56.4% 保護者:51.5% ※部活動運営方針に基づいた休養日の遵守 100% | ○保護者は「部活動に積極的に参加している」のアンケート結果は向上している。 ○各部活動で休養日も取りながら、効率よく部活動運営をしている。 | ・来年度からの地域移行が鈴鹿市で進んでいないと感じる。仲間づくりや身体能力向上に欠かせない。地域と連携して部活動を継続してほしい。 ・部活動の地域移行を知らない人が多いので広めていく必要がある。 ・部員数の少ない部活動がこの1年どのような活動を行ったか知りたい。 | ・今後、教職員の人数が減少する中で、部活動の数をどうしていくかが検討事項である。 |
| | 生徒会活動の充実 | ①生徒会通信の発行(月1回)や生徒会集会を行うことにより、生徒会活動と学級との連携を図る。 ②生徒会を中心とした校則の見直しや学校行事の充実を図る。 ※学校アンケート「生徒会の委員会活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」に“非常にそう思う”と回答 生徒70%以上(昨年度55%) | ①達成:生徒会通信の発行は前期2回、後期1回発行した。生徒会集会は開いていないが、生徒会から委員会や室長にしてほしいことなどを伝える機会は何度か設けることができ、生徒会活動と学級が連携することはできた。 ②達成:校則の見直しに積極的に取り組むことができた。体操服のシャツ出しについては変更済み。来年度の髪型、靴、靴下の校則変更に向け動いている。 ※学校アンケートの結果 生徒:52.9% | ○生徒会通信だけでなく、始業式、終業式、文化祭など全校生徒が集まるときに、生徒会の活動内容を紹介し、取り組みを知ってもらうことができた。 ○学級活動との連携を意識し、生徒会から室長、クラスメイトという風に、企画内容や情報共有を行えた。 ○校則改正の取り組みでは、クロームブックを積極的に活用しアンケートを取ることで、集計時間の短縮、校則について話し合う時間の確保ができた。 ●行事が多く、生徒たちが学校のためにやっていきたいことをなかなか取り入れられなかった。 | ・校則の見直し、試行期間や保護者の意見などを確認して、生徒と議論して実施して欲しい。 ・生徒間の話し合いは大変意義がある。 | ・生徒会通信や、クラスルーム、放送などを有効に使った情報の共有。 ・生徒主体の活動を増やせるよう行事の内容の見直し。 |
| 安全で安心な学校づくり | いじめを許さない学校づくり | ①全教職員がいじめを許さない学校づくりへの当事者としての自覚を深め、早期発見や早期対応に尽力する。 ②人権教育に関する校区小学校との連携を深める。(校区人権部会3回以上) ③生徒会が中心となり、生徒が主体的にいじめ問題について考え、いじめ防止に向けた取り組みを行う。 ④毎日の生活ノート、定期的なアンケートや教育相談を実施し、生徒がいじめを訴えやすい体制を整える。 ※いじめアンケートの実施(年3回)及び認知事案についての保護者連絡(100%) | ①達成:全職員がいじめ基本防止方針を確認し、いじめを許さない学校づくりへの当事者としての自覚を深めた。 ②達成:校区小学校との研修会や連携を行った。 ③達成:4月と11月にピンクリボン活動の啓発をし、いじめ防止の取り組みを行った。生徒にピンクマスクを配布し、着用した。いじめ防止川柳を全学年で募集した。 ④達成:生活ノートの提出により教員と生徒の関係構築に役立った。また、定期的なアンケート・教育相談は計画通り実施できた。 ※いじめ認知件数 13件(2学期末)。 ※保護者連絡 100% | ○いじめアンケートやいじめを認知した際には学年職員を中心に早期対応・解決につながるよう取り組み、重大事案にならないようにした。 ○道徳や総合、学活などで生徒間の横のつながりを増やし、相互の理解を高める取り組みを進めることができた。 ○生徒会が中心となっていじめ防止の取り組みを全校生徒でできた。 ●今後もアンテナを高くして、未然防止に努めていく必要がある。 ●生徒に寄り添いながら未然防止に努めているが、SNS上のトラブルでは問題発覚した際にすでに深刻化している場合もある。学校だけでなく家庭とも協力して行く必要があると感じた。 | ・SNSなど見えにくくなっている部分もあるが、今後も同様に対応して欲しい。 | ・全教職員がいじめを許さない学校づくりを心がける。 ・いじめが発生した時の情報共有、連絡などを速やかに行う。 ・SNSなどのトラブルについては、家庭や外部機関との協力を行っていききたい。 |
| | 交通安全教育の推進 | 1地域・PTAと連携した交通安全指導の実施(年間9回)、交通委員会は毎週) 2交通安全教室の実施や全校集会での啓発を行う。 ※学校アンケート「交通ルールやマナーを守っている」に“非常にそう思う” “どちらかといえばそう思う”と回答 生徒95%以上(昨年度95.9%) ※生徒交通事故発生件数0件(昨年度5件) | 1達成:交通委員会の活動は集会時の啓発活動に変更 2未達成:1年生対象に交通安全教室の実施、長期休業前後の集会で生徒主体の啓発活動を実施した。 ※学校アンケート「交通ルールやマナーを守っている」に“非常にそう思う”と回答 生徒97.4%、保護者95.2% ※生徒交通事故発生件数3件(2学期末) | ○毎週水曜日の朝の呼びかけを集会で生徒自身が内容を考えて発表する啓発活動に変更。生徒中心で考え、行動する活動にすることができた。 ●地域の方から、生徒の交通マナーについて連絡をいただくことがあった。内容は、並列走行・飛び出しが多かった。啓発活動を継続して取り組む必要がある。 | ・自転車の並列走行が目立つ、先生・PTAでの指導、見守り活動の実施を。 ・通学時だけではなく、ヘルメット着用を周知して欲しい。 ・交通ルール、マナーを守って事故が発生しないよう気を付けて欲しい。引き続き啓発活動をお願いします。 ・先生の目のない時も守れるようになって欲しい。 | ・生徒の交通マナーの意識を高くできるように、交通委員会を中心に啓発活動をしていく。 |
| | 防災教育の推進 | ①避難訓練を毎学期(年4回)実施する。 ②防災カルテ等の作成、年間計画や避難行動等のマニュアルの見直しを行う。 ③震災を教訓にした防災教育を行う。 ④校区小学校と連携した津波避難訓練(1年生)を実施する。 ※学校アンケート「災害危機管理について、保護者・地域との連携を図っている」に“非常にそう思う”と回答 保護者35%以上(昨年度7.4%) | ①達成:2学期には地震避難訓練を行った。これは校舎から第2グラウンドに避難する形で行った。 ②達成 ③3月11日前後に全校生徒対象の防災教育を行う予定。 ④未達成:今年度は5月に鈴鹿市防災危機管理課も視察の中、1年生を対象に津波避難訓練を行った。大木中から箕田小学校までを徒歩で移動した。 ※学校アンケート 7.3% | ○津波避難訓練では一人ひとりの生徒が意識高く行動できた。 ●地震避難訓練が全体で1回しかできなかった。 ●当事者意識を持った避難訓練にしていくために生徒はもちろん、職員もより意識を高めていく必要がある。 | ・新校舎になり、地域の人の避難所も兼ねる為の方法も考えたい。 ・自らの安全確保が第一ですが、避難所運営など中学生の力が頼りになる。心構えができるよう期待している。 | ・生徒により実感の持てる避難訓練の計画・立案が必要。 |
| 施設・設備点検の徹底 | ①施設・設備の安全点検を、毎学期実施する。(年3回) | ①達成:学期ごとに点検場所を分担して点検を行っている。 | ○報告のあった箇所についてはその都度修繕をしている。(雨漏り、水道管、トイレなど) | ・今後も、日々の点検を行うことを心掛け、安全に生活できるように、修繕を続けていく。 | | |

| | | | | | | |
|---------------|------------------------|---|---|---|---|--|
| 地域とともにある学校づくり | コミュニティスクール(学校運営協議会)の推進 | <p>①全教職員の参加(9月)、校区合同学校運営協議会の開催(11月)する。</p> <p>②家庭学習について協議し、学校、家庭、地域が連携して家庭学習充実に向けた取り組みを実施する。</p> <p>③地域人材による支援など、校区の地域づくり協議会との連携を図る。</p> <p>④学校支援ボランティアの充実 登録人数30名以上(昨年度28名) ※コミュニティ・スクール推進アンケート「協働型」との回答50% ※家庭のスクリーンタイム減少「2時間以上」前年比-20%</p> | <p>①達成:11月校区学校運営協議会は、新校舎の地域利用について、会議室や学校図書館の地域開放について熟議を持つことができた。</p> <p>②達成:大木中学校区で家庭学習・読書取組チェックシートを改訂し、学校家庭地域が連携して、家庭学習の充実に向けた取り組みを実施できた。</p> <p>③達成:地域人材を活用して、クラブ支援、図書・消毒・家庭科の学習ボランティアに支援していただいた。</p> <p>④達成:学校ボランティア登録者数固定35名 ※コミュニティ・スクール推進アンケート「協働型」との回答19.2% ※家庭のスクリーンタイム減少「3時間以上」41.1%(前年比+4.3%)</p> | <p>○年間を通して、消毒ボランティアを行ってもらい、感染症対策を実施していただいた。3学期は家庭科のボランティアを実施している。</p> <p>○図書ボランティアが掲示物や読書の環境を整備していただき、読書活動の推進を担っていただいた。</p> <p>●学校支援としての環境ボランティアの活動を活発化させたい。</p> | <p>・生徒の地域ボランティアもお願いしたい。</p> <p>・新校舎の地域開放をより考えたい。</p> <p>・地域の方にボランティアで入ってもらうことで、子どもたちと地域の方のつながりやコミュニケーション力、社会性が育つのではないかと。</p> | <p>・コロナで中止になっていた行事などに積極的に参加するように発信する。</p> <p>・新校舎の地域開放について今後も協議していく。</p> |
| | 保護者、地域との連携強化 | <p>①授業参観や学校行事などを積極的に公開し、保護者・地域の方が参加しやすい状況をつくる。</p> <p>②地域づくり協議会との連携を推進する。</p> <p>③ホームページを活かして学校や生徒の様子を発信する。 ※学校アンケート「保護者・地域との連携を積極的に図っている」に“非常にそう思う”と回答 保護者40%以上(昨年度11.6%) ※学校アンケート「地域行事やボランティア活動に参加した」に肯定的な回答 生徒50%以上(昨年度39.7%) ※学校アンケート「通信やプリントを保護者にきちんと渡している」に“非常にそう思う”と回答 生徒50%以上(昨年度41.0%)</p> | <p>①達成:授業参観は、1学期と2学期に1度ずつ実施した。合唱コンクールの参観、3年ぶりの体育祭の保護者の参観、文化祭のオンライン配信など、学校の様子を見る機会を意識的に設けた。</p> <p>②達成</p> <p>③達成:ホームページを活用して、学校や生徒の様子を発信できた。</p> <p>※学校アンケート「保護者…」11.9% ※学校アンケート「地域行事…」39.3% ※学校アンケート「通信や…」37.0%</p> | <p>○授業参観を2度実施をすることができた。</p> <p>○授業・学校行事の公開を行った。本年度は初めての取り組みとして、文化祭のオンライン配信を行った。保護者から好評であった。</p> | <p>・地域行事、ボランティア活動への参加率が増加しているのは良いこと。地域としては中学校への情報提供が更に必要と感じた。</p> <p>・今後もオンラインなど地域も含めた発信をお願いします。</p> <p>・コロナ禍ですが、授業参観や学校行事などを保護者、地域の方が参加しやすいようこれからもお願いしたい。</p> <p>・参観もオンライン配信もとてもよかった。</p> <p>・文化祭のオンライン配信は良かったが、3年生の最後くらいは生で見えなかった。</p> <p>・ホームページは、新しい情報が更新されるなど学校の様子が分かりやすく掲載され、充実している</p> | <p>・行事や授業参観など、できる限り保護者、地域に公開する。</p> <p>・オンライン配信を積極的に利用する。</p> |
| | 校区小学校との協働 | <p>①校区校長会(年6回)を開催し、小中の連携強化を図る。</p> <p>②中学校英語教員が小学校の外国語授業に参加する。</p> <p>③校区の公開授業、校区交流会への参加(1人1回以上)</p> <p>④校区合同メディアコントロール週間の実施(年2回以上)</p> | <p>①達成:3学期に実施。</p> <p>②達成:校区の授業公開と校区夏季学習会のどちらかで、ほぼ全員が参加。</p> <p>③達成:校区の公開授業への参加は一部の教員の参加となった。校区の連携がとりやすいように、オンラインにて研修担当の連絡会を本年度から実施した。</p> <p>④達成:メディアコントロール週間から、家庭学習読書取組週間に名称を変更して、取り組み内容の改正を行った。9月と1月に2回 実施した。</p> | <p>○入学前の6年生の児童の様子を把握することができた。出前授業の内容や準備の仕方(まとめる役や実施時期など)については、小学校との相談をすすめていきたい。</p> <p>◇校区の授業公開に教員が積極的に参加できるような学校の体制づくりが必要である。分科会にわかれて校区の児童生徒のことにについて考える良い機会となった。</p> <p>○生徒は、積極的に取り組むことができていた。アンケート結果をもとに、学校と家庭で連携した取り組みを引き続きすすめていきたい。</p> | <p>・家庭学習読書取組週間での取り組みをより充実したものにするため、引き続き家庭への働きかけを行う。</p> | |
| 働きやすい環境づくり | 総勤務時間の削減 | <p>①45時間以上の過重労働者0名(昨年度のべ81名) 年間時間外労働時間360時間以上0名(月平均30時間以下 昨年度10/29名)</p> <p>②定時退校日の設定 月2日以上で80%以上の退校する。(昨年度45.5%)</p> <p>③放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 60%以上(昨年度26.3%)</p> <p>④留守番電話の実施</p> | <p>①未達成:45時間以上(12月末)のべ 67人(11月末のべ60人)</p> <p>②未達成:定時退校日2日設定は達成 月2日以上で56.6%が退校</p> <p>③未達成:60分以内会議終了 7.4%</p> <p>④達成:実施済み</p> | <p>●45時間以上勤務者が固定されている。仕事量の見直しが必要である。</p> <p>○定時退校日を定時退校ウィークにすることで、少しでも早く帰宅するという意識付けを行った。</p> <p>○メール配信を用いた欠席連絡システムを実施することで、電話の量が減り、別の仕事をする時間を確保することができた。</p> <p>○留守番電話の設置の効果が45時間以上の過重労働の職員を減らすことにつながった。</p> | <p>・先生方の負担が軽減されるよう、今後も取り組み続けてください。</p> | <p>・個々の仕事量ができるだけ偏らないように分掌の割り振りをする。</p> <p>・部活動については、地域移行もふくめて、地域の協力を得ながら進めていく。</p> |
| | ワークライフバランスの啓発 | <p>①休暇の取得促進 特休及び年休の合計取得 20日以上(昨年度10.6日)</p> <p>②夏季休暇の完全取得(昨年度4.3日/5日 86%)</p> | <p>①未達成:休暇取得平均11.9日(11月末)</p> <p>②未達成:夏季休暇取得率平均4.6日/5日 92% 完全取得人数 20人/27人</p> | <p>○長期休業日など取得しやすい時に積極的にとることができた。</p> <p>●振替休日を優先すると、年休を十分に取りにくい職員もいる。</p> | | <p>・長期休業期間や年間の中で計画的・積極的に取ることを常に意識させ励行する。</p> |
| | 個別面談を通じた働き方支援 | <p>①中間面談の完全実施(昨年度100%)、開かれた校長室の推進</p> <p>②働き方改革についての研修の実施 ※鳴門アンケート「先生同士が信頼しあっている」80%以上</p> | <p>①おおむね達成:中間面談完全実施できた。</p> <p>②達成:職員会議などで啓発的な研修を行った。 ※鳴門アンケート「先生同士が…」83.3%</p> | <p>◇中間面談の中で目標や働き方など確認することができた。</p> <p>◇月45時間以上の過重労働している教員は個別に面談を行った。</p> | | <p>・今後も普段からの声掛けもさらに行っていく。</p> <p>・個々の仕事の充実感や満足感を聞き取りながら、時間管理を促す。</p> |
| | 効率的な職場環境の整備 | <p>①校務用ICT機器の有効利用、教材の共有化の推進</p> <p>②職員室内の整理整頓(年3回)</p> | <p>①達成:ICT機器はほぼすべての教員が活用。持ち帰り課題や教材など校内研修等でも議論を重ねた。教材の共有化・各種アンケートなどもICTを活用し業務の効率化を図った。</p> <p>②達成:新校舎引っ越しに向けて、校舎内の大掃除を全職員で行った。また、廃棄物のリスト、購入リストなど、全職員に確認しながら、整理を行った。年末の大掃除も実施し、整理整頓に心がけた。</p> | <p>●ICT活用は個人のスキル差がある。担当や教科内での教材の共有化をさらに進めていく必要がある。</p> <p>○来年度の引っ越しに備えて、常に整理整頓を行うように声かけを行った。長期休暇に掃除する場所を決めて、全職員で整理や廃棄を行った。</p> | | <p>・ICT機器の効果的な活用を今後も研修する。新校舎に向けて、備品や廃棄物の管理を徹底する。</p> <p>・個人情報取り扱いを慎重にする。</p> |